

三溪園全体としての計画。すべての建物が密接に関わりあい、建物単体として完結するような点ではなく、線としてつながっていると感じた。そして、それらを演出し、惹きたてる造園・植栽・池の自然要素をバランスよく構成した景観が印象的だった。

建物内部は、部屋により自然光が巧みに交錯し、作り手の繊細さが伝わってきた。実際に使用されている部屋もあり、どこか温かみがあるように思った。又、三溪園自体にある建物が、栄枯盛衰を繰り返し、構築された歴史のうえに成り立ったも

のではなく、県外から移築され、随所に配されているという事実が驚く。その自然な景観は、いかに完成度が高いかが伺い知れる。

春夏秋冬を意識した植栽。次回は、紅葉した三溪園を是非建見学したいと思った。

